

巻頭言

院長 亀山元信

仙台市立病院医学雑誌第35巻が刊行されることになりました。

今年度は論文として原著6編、症例報告7編、その他2015年に発行された著書、論文リスト、学会発表、院内剖検記録、救命救急センター症例検討会一覧、CPC記録、各科カンファレンス記録が収載されています。原著6編は最近数年間を振り返っても最多であり、多忙な日常診療の合間の時間をやりくりして執筆された各著者の御努力に敬意を表します。

当院は昨年11月1日にあすと長町の新病院に移転致しました。振り返れば1999年の耐震診断で、大規模地震時には診療に支障が出ること、また建物/敷地の狭隘化もあり現地建替えや大規模耐震工事は困難、との結果になり、2004年に新病院構想検討が開始となりました。爾来10年の歳月をかけ、2005年「新しい市立病院のあり方に関する検討委員会」、2007年「新仙台市立病院基本構想策定」、2009年「新仙台市立病院基本計画策定」、2010年「新仙台市立病院基本設計図書作成」と進み、2011年3月10日「新仙台市立病院実施設計図書作成」が完了した翌日に東日本大震災が被災しました。当院も甚大な被害を被りましたが（仙台市立病院医学雑誌第32巻）、災害時救急を含め医療の継続は可能であった幸運に恵まれました。その後、東日本大震災の経験をもとに設計内容を一部変更し、2011年12月に建設工事契約、2012年1月建設工事着工。経過中に震災復興需要の高まりから、資材不足、人手不足による労務単価の上昇などがあり、工期も約3ヶ月延長しましたが、2014年11月1日に新病院開院の運びとなりました。

新病院に移転後は、電子カルテシステムと新たな病院運営システムの導入、心臓血管外科、形成外科、NICUの新設、本年5月には精神科病棟の再開等々、新たな医療機能が加わった真新しい環境の中で病院スタッフは多忙な毎日を送っているのが現状です。移転後7ヶ月が経過しましたが、我々は新病院の機能をフルに活用しているとはまだ言えない状況にあります。業務に追われる毎日ではありますが、さらなる診療の充実、より良い医療を患者さんに提供するためにも、時には自らの業務内容を振り返って、考え、調べ、そして論文/レポートにまとめる作業は極めて重要な意味を有していると考えます。

本誌が仙台市立病院の医療の質の向上、医療人としての専門知識、技術の研鑽に多いに寄与するためにも、医師、コメディカルスタッフからの多くの投稿を今後も期待致します。

多忙な日常診療業務の中で、論文を執筆・投稿された方々、そして指導に当たられた方々、さらに編集作業に当たられた委員長の長沼先生はじめ編集委員の先生方のご尽力に深謝申し上げます。